J-STAGE Data の現状紹介

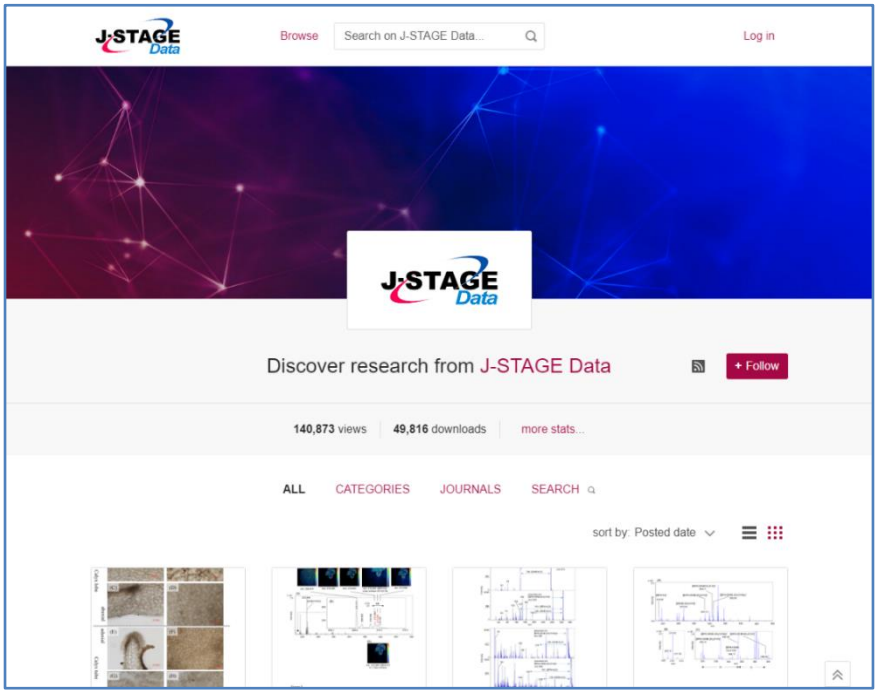
J-STAGE Data ユーザ会

2022年12月5日

科学技術振興機構

J-STAGE Data とは

- J-STAGEの登載論文に付随するデータを登載・公開する**データリポジトリ**
- データにはCCライセンスを付与しオープンアクセスで公開
- 2020年3月リリース
- トップ画面　https://jstagedata.jst.go.jp/



研究データの公開が必要とされている！

✓ オープンサイエンス、データ駆動型研究の潮流

✓ 研究不正の防止、研究の透明性の担保

↓

大学・研究機関・研究助成機関だけでなく、ジャーナルにおいてもデータの公開や共有に関するポリシーの整備が進んでいる

↓

研究者が研究成果論文を発表する際、その根拠となるデータの公開を求められる場面が、ますます多くなりつつある

➢ 2022年改定「JSTの基本方針」においても、「研究データのうち、研究成果論文のエビデンスとなる研究データは原則として公開とする」と明記

データをJ-STAGE Dataに収載するメリット

とくに Supplementary Material（電子付録）と比較して

データに、論文とは独立して、

メタデータ、**DOI**、**CCライセンス** を付与

↓

検索される、**引用**される、**再利用**される

データが論文とは独立に流通する！

そのほか、

- GBサイズ、また、多様なファイル形式のデータを公開できる
- 閲覧数や被引用数など、統計情報が得られる
- プレビュー機能により、元論文においても見やすくなる

J-STAGE Dataのめざすところ

- J-STAGE登載誌の研究根拠データ公開の場

  J-STAGEに登載された論文に関係しないデータは公開しない

  ジャーナル編集委員会による査読・確認のうえで公開する

  研究コミュニティですでに確立したデータバンク・データレポジトリがある場合は、J-STAGE Dataは利用しない

- 研究データの二次利用推進

  二次利用（再利用）が期待される・想定される研究データを公開する

  電子付録（Supplementary Material）と棲み分ける・使い分ける

  たんなるデータ置き場にはしない

- データ産生者の評価

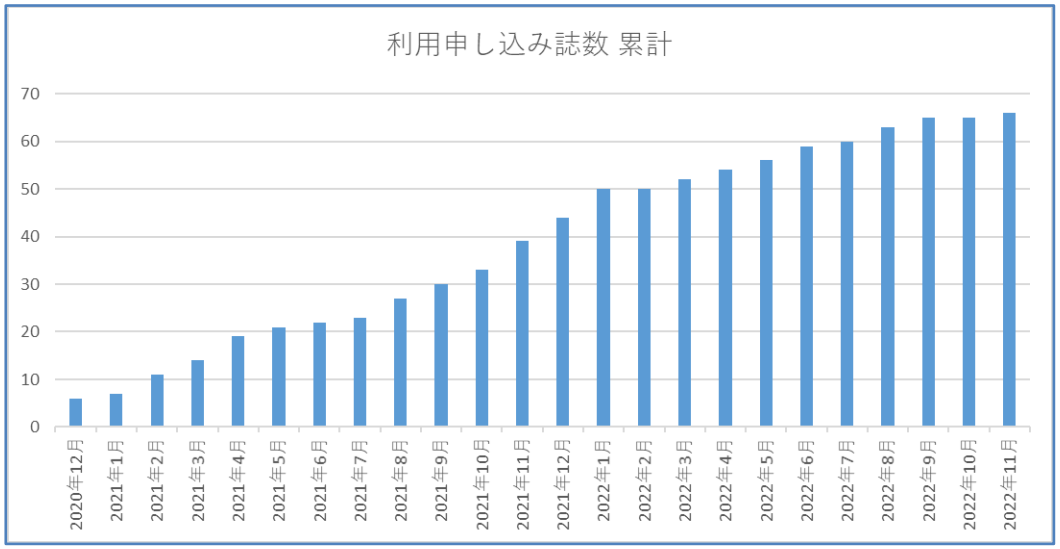
  研究データが公開される、それが引用・再利用されることが研究者としての業績となり、ひいてはデータ産生者の評価につながることを期待

現時点でのJ-STAGE Dataのデータ登載誌

- Acta Arachnologica
- AI・データサイエンス論文集/Intelligence, Informatics and Infrastructure
- Annals of Business Administrative Science
- 保全生態学研究/JAPANESE JOURNAL OF CONSERVATION ECOLOGY
- 地質学雑誌/The Journal of The Geological Society of Japan
- 季刊地理学/Quarterly Journal of Geography
- Annals of Clinical Epidemiology
- Anthropological Science
- Biophysics and Physicobiology
- 情報の科学と技術/The Journal of Information Science and Technology Association
- 日本リモートセンシング学会誌/Journal of The Remote Sensing Society of Japan
- 日本森林学会誌/Journal of Japanese Forest Society
- Bird Research
- Electrochemistry
- Environmental and Occupational Health Practice
- 林業経済/FOREST ECONOMY
- 気象集誌/Journal of the Meteorological Society of Japan
- 生体医工学/Transactions of the Japanese Society for Medical and Biological Engineering
- Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition
- JOURNAL OF OLEO SCIENCE
- Mass Spectrometry
- 第四紀研究/The Quaternary Research
- 粉/KONA Powder and Particle Journal
- 組織科学/Organizational science
- アジア民族文化研究/ASIAN FOLK CULTURE STUDIES
- デジタルアーカイブ学会誌/Journal of Japan Society for Digital Archive
- マーケティングジャーナル/Japan Marketing Journal
- 魚類学雑誌/Japanese Journal of Ichthyology

- J-STAGE Dataに利用申し込みをしたジャーナルは**66誌**
- **29誌**のジャーナルから、**428**のデータが公開されている
- 自然科学系のジャーナルにかぎらず、人文科学系・社会科学系のジャーナルからもデータが公開されている

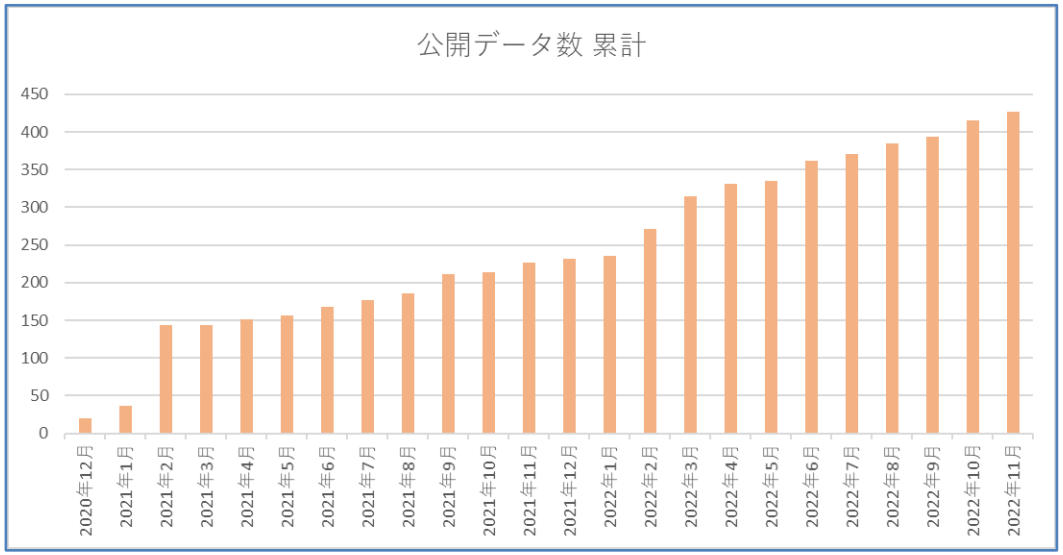
J-STAGE Data の現状



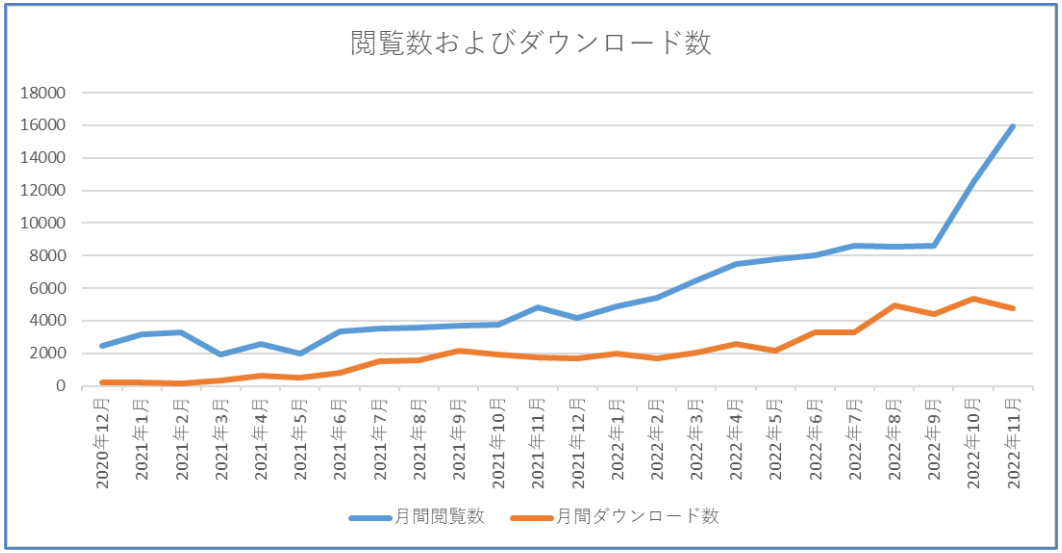
利用申し込み・公開データとも、順調に増加している

利用申し込み誌数は、2023年度中に100誌を超える見込み

公開データ数は、2022年度中に500をオーバーするか



J-STAGE Data の現状

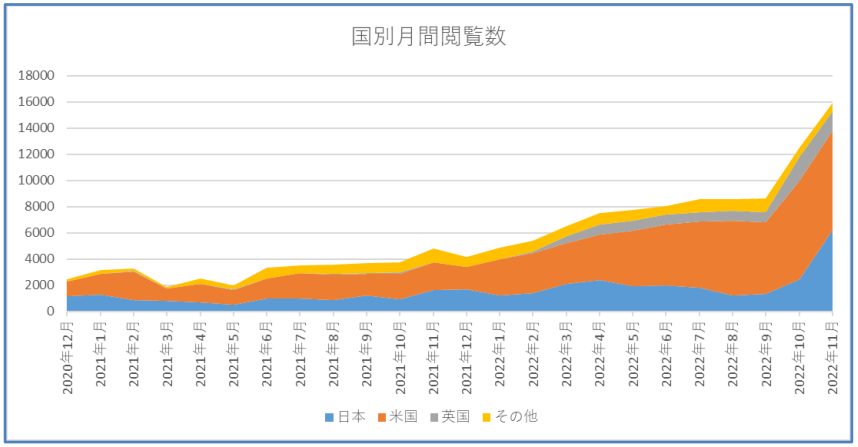


月間閲覧数は15,000以上

月間ダウンロード数は
5000以上

半分以上のアクセスは米国から、
日本からは3割以下

**J-STAGE Dataは国際情報発信に
非常に効果的！**



現状の問題点

- J-STAGE Dataに利用申し込みをしたものの、なかなかデータが公開されないジャーナルがある

  J-STAGE Dataにデータ登載可能となって6ヶ月以上経過した52誌のうち

  25誌は、まだデータを登載していない

  J-STAGE Dataにてすでにデータを登載している29誌について

  5誌は、6ヶ月以上データを登載していない

- メタデータが不十分なまま公開される例が多い

  データの二次利用のためには、メタデータの充実が不可欠

  現状はJSTにてキュレーションを実施、修正を依頼している